

リレーエッセイ「地球を俯瞰する自然地理学」を始めるにあたって

鈴木康弘 フサキ ヤヒロ
名古屋大学防災連携研究センター教授

「俯瞰」とは大所高所から全体を眺め、それによってものごとの大局や本質を理解しようとするスタンスです。学術分野においてその必要性が指摘されています。それは地球環境変動に伴う複合型災害や、黄砂やPM_{2.5}など国境を越える環境問題、さらには社会構造の見直しを迫られるほど深刻な東日本大震災等に対して、従来型の個別領域研究だけでは、どのように克服すべきかの答えを出せないという問題意識があるからです。

俯瞰型研究の重要性は、1999年に当時日本学術会議会長であった吉川弘之氏による特別談話¹⁾において唱えられ、2003年には日本学術会議²⁾により「新しい学術の体系—社会のための学術と文理の融合—」として提案されました。しかしその後、俯瞰型学術研究の進展ははかばかしくないように見え、そればかりか昨今は学術行政において、大学競争力強化³⁾や実利重視の姿勢がますます強まり、人文社会科学等の基礎学問が軽視され、先端技術開発とその社会実装のみが求められる風潮になってしまっています。

こうした状況の中で、元来、俯瞰型を目指してきた自然地理学の有志が集まり、俯瞰型研究の視点と課題とは何かを考えるため、このリレーエッセイを企画しました。とすれば、課題を限定して「狭く深く」追究することこそが一般に先端研究と見なされ、自然地理学者もその一翼を担うこともあります。 「木を見て森を見ず」ではいけません。ものごとを広く俯瞰的に研究する心構えが求められます。

タイトルにある「地球を俯瞰する」とは、まずは地球全体を地理的に広く見ることであり、同時に時間軸も加えて「時空を俯瞰する」という意味でもあります。自然地理学は地質学や古環境学に

近く、千年～万年のオーダーで自然環境の変遷を調べます。また、気候変動、地殻変動、生物多様性、環境問題など、人類社会のサステナビリティ(持続性)やレジリエンス(しなやかな回復力)につながるテーマも扱っています。

学術のいわゆる文と理には、「文化の壁」があるといわれることがあります。また、真理の探究を目指す理学と、社会的利用を目的とする工学との間にも、「溝」があるといわれます。しかし地理学はもともと人文地理学(文)と自然地理学(理)からなり、お互いに刺激しあいながら深化してきました。大学教育において学生は必ず両方を学び、両者の「壁」をほとんど感じません。また、理学的基礎研究と工学的応用研究の双方を内包するため、価値観の違いからくる両者間の「溝」についても、その「深さの度合い」を想像することができます。こうした「勘」は、大規模かつ長期的な地球規模問題の解決にとって必要不可欠です。

一般に自然地理学は短期的な問題解決には直結しづらく、また専用的大型分析装置をもちません。だからこそ、全体を俯瞰的に見て、長期的に考える姿勢につながっています。他の自然科学から多くを学び、また隣接分野の研究者と共同研究を進め、その中で、地理学らしい俯瞰的視点を他分野から高く評価されることもあります。

文部科学省の中央教育審議会特別部会は、2015年8月に次期学習指導要領の改訂骨格案を提示しました。その中で、高等学校においては、環境や防災などの課題解決型学習として「地理総合」を新設し、これを必修科目としました。これは学校教育においても地理学の俯瞰的視点の重要性が認められたためとも言えますが、肝心なことは、ここで注目される学術的知見が決して他分野からの借り物ではなく、地理学者自らが主導しているということです。自らの先端的研究成果に基づくからこそ、現実の課題解決に貢献できるのです。

このリレーエッセイでは、それぞれの著者が究極的に解明したいと考えている「ひとと自然の関係」、もしくは「自然現象そのもの」に関する大

きな命題を語ることから始めて、その命題にどのように取り組んでいるのか、著者自らの経験を交えて紹介していただきたいと考えています。そして最終的に、俯瞰型研究の重要性を再確認できれば願っています。

文献：

- 1-吉川弘之(1999): 俯瞰型研究プロジェクトの推進と総合的な科学技術政策の樹立に向けて(日本学術会議会長特別談話) <http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-17-d4.pdf>
- 2-日本学術会議(2003): 「新しい学術の体系—社会のための学術と文理の融合—」 <http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/18youshi/1829.html>
- 3-文部科学省(2013): 「国立大学改革プラン」 http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/houjin/1341970.htm